



“心豊かに
笑顔あふれる”

青森県
総合社会教育センター

響

所報〈ひびき〉

No.
102

平成27年 6月19日

「賑わいのあるセンターに」



所長 坂本 徹

私にとっては3回目のセンター勤務となりました。4月に赴任して最初にしたことは、職員室の旧受付窓口を塞いでいた「バリア」を撤去することでした。多くの人々が集まって来てくれてこそ「センター」なのです。窓口から中を覗いて「〇〇さんの顔が見えるな、ちょっと寄って行こう。」という雰囲気的大事だと思うのです。

かつては次々と人が訪ねて来て、それこそ「仕事にならない」くらいでした。市町村の社会教育担当者、団体やサークルのメンバー、小中高校の先生方、県庁や市役所の職員、民間教育事業者等々。センターの職員室は、言わばコミュニケーションルームだったのです。

様々な情報が持ち込まれ、交換され、議論が交わされ、盛り上がり、そして何かが生まれる。より良い社会を作る「町工場」のような…そんな雰囲気の場所でありました。

センターを漢字で表記すると「中心」です。当センターが本当の意味で「青森県社会教育の中心」となるためには、人が集い、情報が集まり、凝縮され、そして創造につながる場所でなければなりません。近くにおいでの際は、気軽にセンターの職員室を訪ね、私たちに声をかけていただければ幸いです。

人が集まるべきは職員室だけではありません。1階の公共スペースは、本来多くの人で賑わう場所であるはず。しかるに現実はとても静かなスペースとなっています。それでは困ります。

学校教育では、教室に行けば子供たちがおり、教師はその子たちの表情を見ながら、あるいは声を聴きながら自分のすべきことを考えます。しかし社会教育では、対象とする人と接するためには、自分からそういう場所に出かけて行くとともに、自分の周りにそういう人たちが集まってくる環境を作る必要があります。

今後、当センターを乳幼児から高齢者まで様々な層の人たちが集い賑わう場所にしたいと思えます。ベビーカーを押すお母さん、中庭で歓声を上げる子供たち、調べ学習をする中学生、受験勉強に取り組む高校生、仲間と盛り上がる大学生、スキルアップに励む社会人、趣味やボランティアの活動にいそしむ高齢者…。

そうすることによって、社会教育主事とその賑わいの中に入り込み、直接対話をして生の声を聴く環境が生まれます。もちろんその環境は県内のすべての社会教育関係者が共有できるものです。

賑わいのあるセンター…そうなるこそ、センターはセンターとして機能できると思うのです。

青森県総合社会教育センター

検索

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>